

1. めざす学校像

一人ひとりが自分らしい生き方で社会に貢献できるよう、豊かな人間性と確かな学力が育つ学校をめざします。

1. 建学の精神「報恩感謝」を大切に、教育理念「教育の目的は人をつくること」に基づく教育を実践することにより、人間的な成長・発展を実現し人格の完成をめざします。
2. 生活・学習の両面において基礎・基本を徹底的に行い、社会的自立にむけ、そのため必要な基盤となる能力や態度を育成します。
3. 一人ひとりが持つ可能性を開花させるため、主体的に生きようとする態度と能力を養います。
4. 地域とのつながり強化し、安全で安心な学校をつくりまします。

2. 中期的目標

1. 建学の精神「報恩感謝」を土台に、独自性の高い教育を開発、実践します。
 - (1) 選り抜いた内容を実践し、改良を加えます。
 指導要領の内容と、独自に開発、改良を加えた学習を組み合わせ実践します。
定期的に学習内容を公開し、教育関係者の意見をとりいれて教育内容を精選、改善します。
 - (2) 学校行事の見直し
 子どもの成長の糧となるもの、時代の要請に答えるべき行事を見極め、「何をこそ学ばせるべきか」を熟慮探求します。
子ども自身の活動を重んじ、実行を助け、その結果を常に振り返るように指導します。
2. 基礎学力と基本的生活習慣の育成
 - (1) 生活習慣をしつける方策と実行時期の熟慮と、集団の中で育む方法を探求
 「何を」「どの機会に」しつけるかを熟慮し、規範を示すことにより、生涯にわたる自律の意識を育む指導を行います。
意識的に縦割り集団を組織したり、グループ活動を取り入れたりして「みんなでいっしょに」「高学年を敬う」「低学年を育む」を常に考えさせることで、自律の意識を育みます。
 - (2) 基礎学力の徹底
 ひとりひとりの興味関心を大切に、学習に自信を持たせるように配慮し、意欲的態度や実行力の基礎を養います。
3. 主体的な生き方の尊重

一人ひとりの興味関心を大切に、だれにも自信を持たせる教育を行います。
道徳教育、人権教育を軸に、互いの個性を尊重しあえる土壌をつくりまします。
4. 教育環境の充実

学校の美化に全校で取り組みます。
5. 安心、安全な学校づくり

幼稚園や中学校とのつながりを密にし、相互の教育内容を充実させることにより、長期にわたる同じ方向性を持った指導を行います。
自他の命を尊び、安全な暮らしを希求する態度を育てるとともに、緊急時の対応を検討することにより、校内の安全性を高めます。
6. 内部連携の強化と募集の充実

幼稚園・中学校との連携を強化し、募集活動を充実します。

自己評価アンケートの結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校協議会からの意見 [令和2年1月実施分]
<p>評価項目： 教育活動全般及び学校に対する全体的評価を行った 評価方法： 各項目について、5段階評価を行った 5：大変そう思う 4：どちらかといえばそう思う 3：普通 2：あまり思わない 1：まったく思わない 評価のための資料： 児童（3～6年生）アンケート 保護者（全学年）アンケート 令和元年度小学校教育計画 ○児童・保護者アンケート集計・平均（カッコ内は児童の平均）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に入学させて（して）よかった…4.6(4.7↑) ・学校は学力向上に力を入れている…4.1(4.6↑) ・指導方法は工夫され、分かりやすい…4.3↑(4.4↑) ・主体性、自主性を育む環境が整っている…4.5(4.5↑) ・まじめに授業を受けている…4.2(4.1) ・行事は楽しく充実している…4.7(4.7↑) ・学校のきまりはいいきまりだ…4.4↑(4.4↑) ・きまりの指導に力を入れている…4.2(4.5↑) ・きまりやマナーを守っている…4.0(4.2) ・児童会活動や係り活動をがんばっている…4.5(4.7↑) ・友だちとうまくいっている…4.3↑(4.4) ・先生と子どもはうまくいっている…4.5↑(4.3↑) ・ケンカいじめに対応する…4.3↑(4.4↑) ・制服、ランドセル、体操服が気に入っている…4.2(4.2↑) ・校内の習い事や同好会は充実している…4.4(4.3↑) ・校内の施設、設備は充実している…4.2(4.2↑) ・教室や学校の中はいつもきれいになっている…4.2↑(4.1↑) ・成績のお知らせやお手紙をきちんと出している…4.2↑(4.7) <p>教職員の自己評価・平均値</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上に努めている…4. 2 ↓ 社会的マナー・モラルの定着に努めている…4. 0 ↓ 思いやりのある態度育成に努めている…4. 1 ↓ 保護者との連携に努めている…4. 3 ↑ 人権意識向上に努めている…4. 1 自然環境保全の意識向上に努めている…3. 7 ↓ 衛生的で健康な生活の知識技能の指導に努めている…3. 6 ↓ 防災や安全に関する指導に努めている…4. 0 ↓ 主体性を重視した指導に努めている…4. 4 ↑ 読書指導に努めている…4. 1 ↑ 挨拶など礼儀を重んじる態度の定着に努めている…4. 2 時間を守るなど、規則を守る態度の定着に努めている…4. 4 ↑ 物を大切にする心や、美化意識の向上に努めている…4. 0 	<p>保護者及び児童アンケートの項目と、それぞれの項目に対応する教職員の自己評価を比較しても、大きなずれはみられない。これらを合わせて考えると、小学校の教育内容、指導方法などが保護者や児童に支持されていると考えられる。</p> <p>保護者及び児童アンケートの項目を比較したとき、「基礎学力向上のため努力している」「決まりの指導に先生は力を入れている」「先生と子どもの関係」「生活や成績通知」の4つの項目に、若干の開きがみられる。児童は毎日学校生活を送っているのに比べると保護者は学校との関わりが限られており、そういった開きがこの差を生んでいるのではないかと考える。また、小学校の学力というのはテストの得点などでははかれないような要素が多くあり、子どもたちがその部分を評価しているのが保護者の評価と差が出ているのではないかと考える。いづれにせよ、先生方が学力向上に意欲的であるという思いは子どもたちに伝わっていることには間違いない。子どもたちの学校の先生との関係がもう少し向上することを望む。友人関係と教員との関係が向上すれば、ほかの項目も自動的に上がってくると期待している。</p> <p>制服への満足度は、数値としては問題がない。ただ、コートや男子半ズボンに関する要望など個別の要望があるので、手書きのコメント等を参考の上、学校で検討していただきたい。</p> <p>教員自己評価のうち、「教育活動がしやすく、子どもにとって好ましい環境が整っている」の項目は、相対的に得点が低い。小学校内設備に限定せず、総合学園である特徴を生かして例えば高校の調理室や図書館の積極的な利用などをすることによって向上するのではないかと。</p> <p>教員の働き方改革が世の中で話題になっているが、四條畷学園小学校でも必要を感じる。これは教員だけではなく、保護者が連携して押し進めていくべき内容であると考えている。将来的には、例えば担任がクラスを持つのではなく、3クラスを4人の先生が担当するなどといった抜本的な改革を行い、そういった体制を児童や保護者も受け入れていくという制度の変更も考えるべき時に来ているのかもしれない。</p> <p>総合的に判断して、教職員の自己評価はおおむね評価通りであり、分析も実態に即したものであると考えられる。分析結果を次年度以降の改善に生かしてもらいたいと切に望む。</p>

学習の遅れている児童への支援を行っている…4. 1
 問題を抱えた児童や保護者への相談活動に努めている…4. 3 ↑
 きめ細かな進路相談に努めている…4. 0 ↑
 活発に、教員間で教育生活指導について、意見交換している…4. 0
 計画的に、教職員対象の研修が行われている…4. 1 ↑
 個人の研究・研修を支援する制度が整備されている…3. 8 ↑
 外部の研修会などで得た情報を、校内で共有しやすくなっている…3. 7

自己評価の分析

○ 学校運営に関する評価は前年からポイントが下がったものが3項目、上がったものが3項目である。
 ○ 学校運営に関する評価については、当面の目標である4. 0以上の評価が設問9項目中の4項目しかなかった。教育方針や学校運営を教職員全員がよく理解し、教育を実践するよう努力が必要である。
 ○ 教育内容に関する項目は、ほぼ前年と同様の評価である。10, 11, 12, 21, 25
 また、生活指導について（時間遵守・挨拶と礼儀）もほぼ前年と同様の評価である。13, 14, 22, 23
 ○ 保護者、児童のアンケートと著しくポイントがずれた項目はない。学習に関する評価は、保護者、児童、教職員ともおおむね満足していることを示している。年間を通じた校内研究授業が、教職員の個々の指導力向上に役立ったと考えられる。次年度はよりいっそう改善を加え指導力向上に努め、新しい行事の開発や、行事の内容改善にも取り組みたい。
 ○ 教員研修に関する評価のうち、「研究研修支援制度」「計画的な教職員研修」の項目について評価が上がった。しかし、「研究研修支援制度」「外部研修内容の共有」の項目については目標に達しなかった。
 ○ 教員研修に関する評価については、「計画的な教職員研修」「教育生活指導の意見交換」の項目については評価がよく、その改善に努力した成果がみえる。
 今後、よりいっそうの強化に努め、教員の資質向上に努める。特に、個々の教員が研修に参加した成果の共有も不十分であり、経験交流の場を設け学び合う環境作りを考えたい。

自己評価の分析
 自己評価の分析

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

3. 本年度の取組内容及び自己評価

【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	自己評価
1. (1) 選び抜いた内容の実践と改良	1. 「指導要領プラス」をスローガンとしたカリキュラム・教材/教具を模索、実践しその効果を検証します。	1. 講師（指導助言者）を招聘して複数回の校内研究授業を計画実践し、今後の研究の深化に役立てます。 2. 公開授業研究会に向け、長期的展望に立った研究をすすめます。 3. 長期休業中の校内研修日を活用し、職員の合同研修を計画します。 4. 次回開催の公開授業研究会を視野に入れ、校内研究授業を計画実践し、今後の研究深化に役立ちます。	指導力向上に関する教員自己評価を4.3以上にします。（令和元年度4.3）	（令和2年度自己評価と今後の方策）
	2. 1～6年生の英語カリキュラムと教材を開発、研究します。	1. 昨年度1年生用に再編した英語教材を改善します。 2. 昨年度再編した2～6年生のカリキュラムと教材を、より充実させるために改善を加えます。 3. 5・6年生の英語が教科になることに伴い、新たな教材や教授法を研究、開発します。各児童に英語学習機材をもたせ（シャープ英語辞書に入っているアプリ・プレーン）、個別学習を実施します。 4. 複数教員による英語科研究体制を構築します。 5. 1～6年生まで通したモジュール学習の教材の指導法を検討します。 6. 私立小学校連合会英語部会主催の「小学生レシテーションコンテスト」に参加します。 7. 英語の教科化に対応した絶対評価（Can-Do Listに適応した）を導入します。		
	3. プログラミング教育の教材を開発、研究します。	ICT研を軸とした研究組織を作り、現行の学習にプログラミングを加味した教材「K00V」を導入し、実践します。		
	4. 道徳教材を精選、実践します。	道徳科研究部を中心に、評価項目の検討と改善を行います。		
	5. 社会科のカリキュラムを改善します。	独自のカリキュラム、「価値判断授業」を全学年に導入します。		
1. (2) 学校行事の見直しと改良	1. 全校行事を改良します。	保護者や児童の意見をもとに、ヤングアメリカンズや体育会、秋まつり、音楽会などに改良を加えます。		
	2. 宿泊行事を見直します。	修学旅行の充実を図るために、旅行先を含めた検討を行います。カントリーステイの内容の拡充を検討します。春は従来通りの田植え、秋には日帰り遠足で稲刈りを検討します。	保護者、児童アンケートのうち、「行事は楽しく充実している」の評価を向上します。	
2. (1) 基本的な生活習慣の育成	1. 児童の自主性・主体性がより発揮できるよう、児童委員会・係活動・縦割り活動、行事の内容を再検討します。	1. 縦割り活動や児童会を通じて、児童自身が校内のマナー向上策を考えられるように活動形態を整備し、活性化を図ります。 2. 児童会活動のシステムを、さらによきものになるように検討を加えます。特に児童会主催のボランティア活動を奨励します。 3. 「自律の手助け」を念頭に置き、各家庭及び学級に配布する「しつけポスター」を指針として家庭と学校が協力し、指導を行います。	主体性に関する教員自己評価を4.4以上にします。（令和元年度4.4）	主体性に関する教員自己評価は4.4（前年より向上）
	2. 規律遵守の意識レベルの向上を図ります。	1. 特に言葉づかいと姿勢について、教員が範を示し児童が見倣うことのできる機会を積極的に増やします。年度末にマナーに関する自己評価の時間を設定し、フィードバックをうながします。 2. 登下校のマナー向上のため、職員が交替で通学路に立ち、児童の直接指導に当たります。 3. 職員が交代で毎土曜日に四条駅駅に行き、乗車マナーの指導に当たります。 4. 校外行事の日、校内に訪問者が来る日を『マナー実践の場』と児童に意識させ、実際の場に応用する機会を作ります。 5. 年度初めに各担任が「学校のきまり」を児童と保護者に説明し、理解と協力を求めます。	保護者、児童アンケートのうち、「児童会活動や係活動がんばっている」の評価を向上します。 マナー・モラルに関する教員自己評価を4.0以上にします。（令和元年度4.0） 保護者、児童アンケートのうちしつけに関する3項目の平均（4.0以上）を維持します。	児童会活動に関する評価は保護者が4.5（前年並み）児童が4.7（前年より向上） マナー・モラルに関する教員自己評価は4.0（前年並み） しつけに関するアンケートは保護者が4.2、児童が4.3

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

<p>2. (2) 基礎学力の徹底</p>	<p>1 国語の観点のうち、「書く能力」の向上を図ります。</p>	<p>6. マナー、しつけについての学期目標を定め、児童と教員に周知しその徹底を図ります。</p> <p>1. 学年教科研究を研究の軸として機能するように時間と場所を確保します。</p> <p>2. 「書き、まとめる」「書いて考える」「書いて交流する」授業プランを開発、改良し、複数の教員が授業化することによりプランの質的向上を図ります。</p> <p>3. 「書くこと」を意識した授業を全カリキュラムに導入し、児童の書いたノート、WS類を校内研究会で研究の対象にし、招聘した講師の指導助言を受けます。</p> <p>4. 統一確認テスト等の学力テストで、基準とする値に達していない児童を抽出し、学級担任および学年補助教員が対象児童の学力向上に努めます。次年度の学力テストでその成果を再調査し、指導方法が有効であったかを検証します。</p>	<p>学力向上に関する教員自己評価を4.2以上にします。(令和元年度4.2)</p> <p>学力テストの、国語の観点別評価項目「書く能力」をすべての学年で前年度以上に引き上げます。</p>
	<p>2. 国語の観点のうち、「聞く能力」の向上を図ります。</p>	<p>1. 低学年では「読み聞かせ」を重視し、聞き取った内容や感想を発表し合う場を持ちます。</p> <p>2. 「読む・書く」の「繰り返し練習」により、「話の要旨を的確に把握して、その内容を理解できる」ための基礎となる知識、特に語彙力を増やします。</p> <p>3. すべての教科で、聞き取ったことをメモしたりノートに取ったりする活動を増やします。</p> <p>4. 統一確認テスト等の学力テストで、基準とする値に達していない児童を抽出し、学級担任および学年補助教員が対象児童の学力向上に努めます。次年度の学力テストでその成果を再調査し、指導方法が有効であったかを検証します。</p> <p>5. 学力テスト対策委員会を立ち上げ、月1回基礎学力向上にむけた話し合いを持ち、合わせて模擬テストを実施します。</p>	<p>学力テストの、国語の観点別評価項目「聞く能力」をすべての学年で前年度以上に引き上げます。</p>
	<p>3. 教員の指導力向上をはかります。</p>	<p>1. 多様な指導形態による個に応じた指導法の開発に努めます。</p> <p>2. 学年主任を中核としたOJTを推進し、若手教員の授業力や児童理解力、学級経営力の育成の日常化を図ります。</p> <p>3. 学年内でお互いに授業を公開し合い、授業力向上と学年内での指導方法の統一を図ります。</p> <p>4. 研究授業を増やし、相互の実践を対比することで指導力の向上を図ります。</p> <p>5. 重点目標に合致する研修、研究会に参加し、指導力向上を図ります。</p> <p>6. 外部講師を招聘し、研究授業で指導助言をおおぎ、教員の資質向上を図ります。 * 授業ネットワーク理事長 石川 晋氏に授業と講演・指導助言 年間3回予定</p>	<p>計画的な教員研修に関する教員自己評価を4.1以上にします。(令和元年度4.1)</p>

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

3. 本年度の取組内容及び自己評価 【人権・道徳】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	自己評価
<p>3. 主体的な生き方の尊重</p>	<p>一人ひとりの興味関心を大切に、だれにも自信を持たせる教育を行います。道徳教育、人権教育を軸に、互いの個性を尊重しあえる土壌をつくります。</p>	<p>1. 道徳教育の充実を図ります。教科道徳への移行をふまえ、週1回の道徳を確実に実施するとともに、「考える道徳」「学びあう道徳」の実践を進めます。</p> <p>2. 人権尊重を目標にした授業のほか、体験型の講習会や社会見学、人権を意識した校外行事を実施し、人権意識の向上をはかります。</p> <p>3. いじめ等を防ぐために、各学年アンケートを行い、人権意識を育てます。（学年はじめと宿泊行事の前に実施）</p> <p>4. 日記や作文などをもとに、子ども同士の人間関係を押し量り、よりよい学校生活を送ることができる環境を整えます。</p> <p>5. 「学習の記録」及び「指導要録」に記載する個人内評価を検討し、実施します。</p>	<p>人権意識向上に関する教員自己評価を4.1以上にします。（令和元年度4.1）</p>	

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

3. 本年度の取組内容及び自己評価

【施設・設備】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	自己評価
4. 教育環境の充実	学校の美化に全校で取り組みます。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童の自教室の美化意識を向上させることを、校内全体の美化意識向上につなげます。 2. 児童に持ち物を自主的に整理整頓させ、担任は定期的に指導を行います。 3. 児童会・美化委員会が企画立案する駅前清掃、校内清掃を実施します。 4. 老朽化した設備を修理、改修し、校内の安全性と美化を向上します。(体育館・教室・廊下) 5. プール・更衣室・特別教室の移転先を検討し、計画します。 	美化に関する教職員の自己評価を4.0以上にします。(令和元年度4.0) 保護者、児童アンケートのうち、「校内の施設、設備は充実している」の評価を向上します。	

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

3. 本年度の取組内容及び自己評価 【環境】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	自己評価
5 安心、安全な学校づくり	<p>1. 児童の生命を守るために、対策をたて取り組みます。</p> <p>2. 児童の安全に対する意識を向上させるため、特別活動や道徳の時間を使って教育を行います。</p> <p>3. 防災対策を強化します。</p>	<p>1. 一般防災に関する対策</p> <p>(1) 防災マニュアルに沿った避難訓練、マニュアルの検討を行います。</p> <p>(2) マニュアルが機能するよう、避難通路や防災用具を定期的に点検します。</p> <p>(3) 緊急集団下校マニュアルに添い、円滑な保護者への引き渡しを目的とした訓練を行います。</p> <p>(4) 緊急時の一斉配信システムを整備します。</p> <p>(5) 宿泊を伴う校外行事では、最初に避難経路を児童に知らせ、必要に応じて避難訓練を行います。</p> <p>(6) 大阪880万人訓練に参加し、防災意識の向上を図ります。</p> <p>2. 不審者等の危機管理</p> <p>(1) 不審者対策危機管理マニュアルにそって危機レベルごとの迅速な対応ができるよう、職員の訓練を行います。</p> <p>(2) 不審者対策として、校内に防犯カメラを設置し、児童の安全確保をよりいっそう強化します。</p> <p>(3) 不審者対策危機管理マニュアルを作成し、児童に危害が及ぶ危険性を段階的に設定します。</p> <p>(4) 地域集会で各地域の危険な箇所を選び、詳細な指導を行います。</p> <p>1. 「自分のいのちは自分で守る」意識を徹底させ、教職員とともに臨機応変に避難できる子どもを育てます。</p> <p>2. 外部組織と連携し、安全意識向上のための教育を行います（四條畷警察による安全教室、NTTによる安全モラル教室 大阪府少年サポートセンターによる非行防止教室 大阪府警による非行防止教室等）。</p> <p>1. 火災、地震等の防災係を組織します。</p> <p>2. 防災マニュアルを作成し、マニュアルに沿った避難訓練を実施します。</p> <p>3. 地域集会で、各地域に即した防災指導を行います。</p>	<p>「防災や安全に関する指導」の教員自己評価を4.0以上にします。（令和元年度4.0）</p>	

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

3. 本年度の取組内容及び自己評価 【募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	自己評価
6. 内部連携を強化し募集活動を充実	幼稚園・中学校との連携を強化し募集活動を充実します。	<p>幼稚園との連携</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連絡会・協議会などを通じ教師間の相互理解と交流を深めます。 2. 保護者対象の公開授業や説明会を実施します。 3. 幼稚園の連携を強化し、内部進学数の増加に努めます。 4. 児童による園児との交流の場を設け、小学校の取り組みが園児に伝わる機会を増やします(本読み、もの作り、音楽交流)。 <p>中学校との連携</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連絡会・協議会などを通じ教師間の相互理解と交流を深めます。 2. 中学校の連携を強化し、内部進学数の増加に努めます。 3. 内部進学の見学指導を強化します。 4. クラブ体験や授業体験を設け、中学の活動が小学生に分かる機会を増やします。(運動クラブ体験、文化クラブ体験、理科授業体験、中学出前授業) <p>募集活動を検討します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童募集活動の課題を抽出し、その対策を検討します。 2. 入学を検討している保護者に対する、校内外入試説明会・塾説明会・体験授業の方法を検討します。 3. 広報媒介を検討します。 4. 私学展等の公開説明会での説明方法を改善します。 5. 外部幼稚園への広報活動を拡充し、希望する園で説明会を実施します。 	<p>令和元年度は、幼稚園(年長123名)内部進学者47名(38%)でした。</p> <p>今年度は、94名の年長園児のうち、内部進学者40名以上(40%以上)を目標とします。</p> <p>令和元年度は、中学内部進学者60名(64%)でした。</p> <p>今年度は部進学者70%以上を目標とします。</p> <p>令和元年度は入学者90名でした。</p> <p>今年度は集定員充足90名以上に努めます。</p>	